

りんご新品種 (奨励)  
りんご「きおう」

(園試果樹部)

1. 来歴

本試験場において、昭和58年「王林」に「はつあき」を交雑して得た実生の中から選抜、育成した。平成3年に品種登録出願。

2. 特性の概要

- 1) 樹姿はやや開張、樹の大きさ、樹勢は中程度である。
- 2) 収穫期は9月上～中旬とつがるとほぼ同時期であるが、収穫前落果は少ない。
- 3) 果実は、280～300g程度であり、つがるに比較するとやや小さく、さんさと同程度の大きさである。
- 4) 果色は黄色、果肉は黄色で硬く、非常に歯触りが良い。食味は、果汁が多く甘酸適和で優れている。
- 5) 常温で約1ヶ月の日持ち性があり、早生品種の中では、貯蔵性が優れている。

3. 奨励品種に採用したい理由

- 1) 現在栽培されている9月上～中旬収穫の主要品種であるつがるは、県南地域で着色、日持ち性が劣る、収穫前落果があり栽培が難しい等の欠点があった。このため、つがるに優る岩手オリジナル品種の開発、育成に取り組み岩手1号として選抜した品種である。本種は食味、日持ち性などつがるに優り、黄色種の特長上、着色管理作業等省力化が可能であり、栽培上有利性が認められることから奨励品種としたい。
- 2) ふじが小玉となる問題を抱えた県北地域では、早生である本種の導入により品種構成の適正化、労力配分が容易になる。
- 3) りんごの早生種は、現在赤色品種のみであり、黄色種は初めてである。本種の導入によりセット販売など消費拡大が期待できることから、本県の特産品としての栽培により有利性が期待される。

4. 適応地域 (重点推進地域)

ふじが小玉となる県北地域及びつがるの着色不良となり易い県南地域 (300ha)  
(第1図)

5. 栽培上の留意点

- 1) 花芽の着生は、短果枝型で良好、豊産性であるため、過着果にならないように注意する。(4～5頂芽に1果程度)
- 2) 黄色品種であることから、早取りにならないよう地色が抜けて十分に熟してから収穫する。
- 3) 果実の大きさとしては、300g前後が品質的に良好であり、肥料のやりすぎ等による大玉の生産を避ける。
- 4) 花粉の親和性は、ふじ、王林、スターキング、紅玉、さんさ等主要品種は良いが、つがるやはつあきは劣るので授粉樹としては利用できない。

## 6. 試験成績概要

表1 きおう及び授粉親和性の高い品種の生態

品種	調査年	発芽期	展葉期	開花期		
				始	盛	終
きおう	平3	4/7	4/15	5/6	5/8	5/12
〃	平4	4/4	4/16	5/10	5/14	5/21
ふじ	〃	4/3	4/15	5/11	5/15	5/22
王林	〃	4/2	4/11	5/10	5/13	5/22
さんさ	〃	4/3	4/12	5/11	5/15	5/23

表2 きおうの樹体特性

樹姿	樹勢	節間長	葉身の形	葉柄の長さ
やや開張	中	中	やや長	やや長

表3 きおうの果実特性

熟期	果皮色	形状	果重(g)	さび	硬さ	きめ	蜜	甘味	酸味	果汁
9月上旬	黄色	円	280~300	なし~少	中	中	少	多	多	多

表4 果実内容

	年次	収穫日	果重(g)	硬度(lbs)	糖度(Bx)	酸度(g/100ml)
きおう	平2	9/12	271	15.1	14.6	0.35
つがる(対照)		9/5	347	13.3	12.8	—
さんさ(対照)		9/10	276	14.2	15.8	—
きおう	平3	9/11	248	13.7	14.0	0.28
つがる(対照)		9/12	314	12.6	13.7	0.17
さんさ(対照)		9/10	283	13.5	14.8	0.41
きおう	平4	9/14	273	13.5	14.1	0.25
つがる(対照)		9/14	344	11.5	12.3	0.18
さんさ(対照)		9/10	274	13.4	14.3	0.43